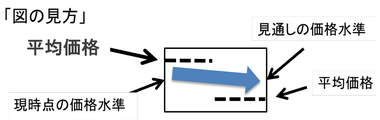
平成30年2月13日
独立行政法人農畜産業振興機構

野菜の需給・価格動向レポート（平成３０年２月１３日版）

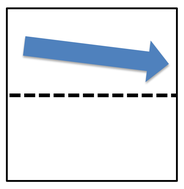
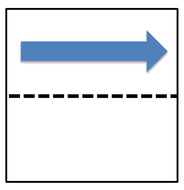
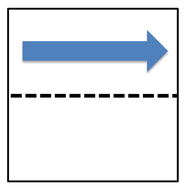
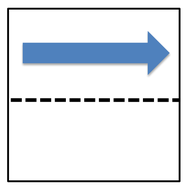
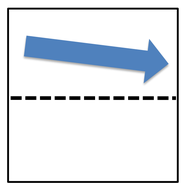
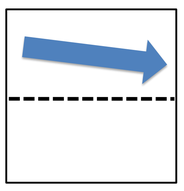
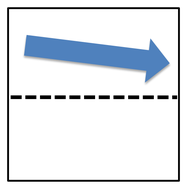
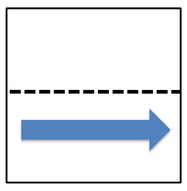
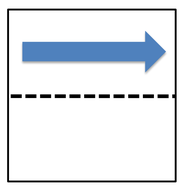
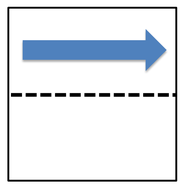
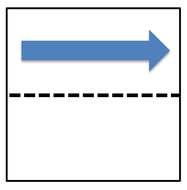
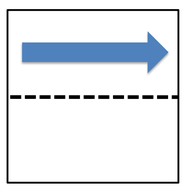
１　主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

「図の見方」



平均価格（点線）は、レポート期間中に変動する場合があります。

種類		１月の価格情報				２月	１月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量（　）内は、本年と過去３カ年平均値との比率	２月の主産地	生育及び価格の２月下旬までの見通し	
		（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 上旬	中旬	下旬	（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格				
葉茎菜類	キャベツ	96.86	227 (234%)	173 (179%)	146 (150%)	96.86	・6,731t (73%)	愛知(58)，千葉(23)		愛知産は、１月以降の低温による生育遅れから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の天候不順や12月以降の低温による生育遅れに加え、早採りによる小玉の出荷割合が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 愛知産及び千葉産の出荷は平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれるが、春玉の入荷増が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		92.10	235 (256%)	167 (181%)	157 (171%)	92.10	・2,408t (58%)	愛知(53)，大阪(11)，兵庫(11)		
	たまねぎ	83.77	90 (107%)	92 (110%)	98 (117%)	83.77	・6,737t (82%)	北海道（83），静岡(14)		北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、昨秋の台風後に播種したものの生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産及び静岡産の出荷は平年並みと見込まれるが、サラダ需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		83.77	90 (108%)	95 (113%)	96 (115%)	83.77	・3,167t (99%)	北海道(80)		
	ねぎ（関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ）	127.15	372 (293%)	311 (244%)	334 (263%)	127.15	・1,739t (73%)	千葉(42)，埼玉(26)		千葉産は、昨秋の台風被害により下級品が例年よりやや多いものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、１月下旬の降雪による影響は軽微で、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産及び埼玉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、鍋物等の季節需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		473.04	997 (211%)	887 (187%)	836 (177%)	473.04	・118t (59%)	徳島(35)，奈良(14)，高知(12)，香川(10)		
	はくさい	64.18	127 (198%)	128 (200%)	130 (202%)	64.18	・4,151t (71%)	茨城(72)		茨城産は、年内よりは回復したものの、依然として小玉傾向となっており、例年よりほ場の残量も少ないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		68.70	158 (231%)	155 (226%)	149 (217%)	68.70	・1,550t (66%)	愛知(23)，兵庫(17)，宮崎(15)，長崎(15)		
	ほうれんそう	338.43	977 (289%)	683 (202%)	722 (213%)	338.43	・739t (77%)	茨城(27)，群馬(27)，千葉(18)		茨城産は、低温や干ばつ傾向で生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、低温や干ばつ傾向で生育遅れがみられるものの、台風後播種したものが出荷される見込みであることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。千葉産は、昨秋の台風及び12月以降も続く低温により生育遅れがみられるものの、遅れている出荷がずれ込む見込みであることから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 茨城産の出荷は平年より少なめと見込まれるものの、群馬産及び千葉産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		375.38	964 (257%)	758 (202%)	695 (185%)	375.38	・259t (74%)	徳島(38)，福岡(28)，群馬(11)		
	レタス（結球）	233.85	579 (248%)	350 (150%)	285 (122%)	233.85	・2,104t (70%)	静岡(27)，茨城(21)，香川(12)，兵庫(7)		静岡産及び香川産は、昨秋の台風後に定植したほ場からの出荷となっており、生育遅れはみられるものの、回復傾向にあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、11月以降の低温により、生育遅れがみられるものの、回復期にあることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 静岡産、茨城産及び香川産の出荷が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		226.75	553 (244%)	340 (150%)	295 (130%)	226.75	・591t (68%)	兵庫(43)，徳島(21)，長崎(11)		
果菜類	きゅうり	370.98	392 (106%)	439 (118%)	447 (120%)	370.98	・2,519t (94%)	宮崎(28)，千葉(19)，群馬(17)，高知(15)		宮崎産は、12月以降の低温の影響で生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産及び群馬産は、１月以降の低温や干ばつ傾向で生育遅れがみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、２月以降の低温の影響が懸念されるものの、概ね生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 宮崎産の出荷は平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産、群馬産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれ、春作の入荷増が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		350.33	367 (105%)	420 (120%)	427 (122%)	350.33	・1,013t (99%)	宮崎(39)，高知(23)，徳島(18)		
	トマト（大玉）	349.23	403 (115%)	347 (99%)	303 (87%)	349.23	・2,956t (109%)	熊本(33)，栃木(20)，愛知(12)		熊本産は、12月以降の低温による着色不足がみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、降雪の影響も軽微で、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、ハウス作の生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		326.61	388 (119%)	339 (104%)	292 (89%)	326.61	・1,140t (123%)	熊本(74)		
	なす	389.03	403 (104%)	433 (111%)	436 (112%)	389.03	・735t (100%)	高知(66)，福岡(16)		高知産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、12月以降の低温による生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 福岡産の出荷は平年よりやや少なめと見込まれるものの、高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		397.74	399 (100%)	425 (107%)	423 (106%)	397.74	・291t (121%)	高知(44)，熊本(24)，福岡(18)		
	ピーマン	578.80	602 (104%)	706 (122%)	719 (124%)	578.80	・599t (103%)	宮崎(40)，茨城(21)，高知(20)		宮崎産は、12月以降の低温による肥大遅れや成り疲れにより、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、春作が出荷開始となったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産及び高知産の出荷は平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		565.30	553 (98%)	662 (117%)	681 (121%)	565.30	・320t (118%)	宮崎(49)，高知(26)		
根菜類	だいこん	79.03	204 (258%)	189 (239%)	143 (181%)	79.03	・3,745t (61%)	神奈川(56)，千葉(35)		神奈川産は、昨秋の天候不順や１月以降の低温により、生育遅れがみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、昨秋の天候不順及び１月の低温により、肥大が鈍く細ものの出荷が多いことから、引き続き平年より、少なめの見込み。 神奈川産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		80.47	188 (234%)	172 (213%)	121 (150%)	80.47	・2,472t (71%)	長崎(35)，鹿児島(27)，徳島(24)		
	にんじん	111.16	127 (114%)	139 (125%)	154 (139%)	111.16	・3,012t (67%)	千葉(82)		千葉産は、昨秋の天候不順、それ以降の低温や干ばつ傾向により肥大不足で、やや細ものでの出荷となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれ、関東産の残量が少なめであることから、平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		109.97	154 (140%)	173 (157%)	154 (140%)	109.97	・1,071t (85%)	鹿児島(72)		

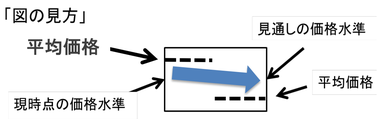
注：１　平均価格は、過去６カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
２　旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
３　単位は円/ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
４　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで平成28年実績である。
５　コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1　主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類		１月の価格情報				２月	１月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量（　）内は、本年と過去３カ年平均値との比率	２月の主産地	生育及び価格の２月下旬までの見通し
		（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 上旬	中旬	下旬	（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格			
いも類	さといも	228.85	270 (118%)	284 (124%)	289 (126%)	228.85	・198t (61%)	埼玉(42)，千葉(37)	埼玉産は、昨秋の天候不順により肥大不足で小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、作付面積の減少に加え、定植時の干ばつ傾向により肥大が進まず、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		219.65	296 (135%)	288 (131%)	245 (111%)	219.65	・105t (139%)	愛媛(51)，宮崎(16)，熊本(10)	
	ばれいしょ	96.99	102 (105%)	106 (110%)	109 (113%)	96.99	・3,870t (85%)	北海道(76)	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、L及びMサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷は平年並みと見込まれるが、需要が底堅いことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		96.99	99 (102%)	102 (106%)	106 (109%)	96.99	・1,577t (90%)	北海道(69)，鹿児島(26)	

「図の見方」



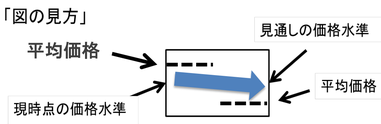
平均価格（点線）は、レポート期間中に変動する場合があります。

注：１　平均価格は、過去６カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
２　旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
３　単位は円/ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
４　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで平成28年実績である。
５　コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1　主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類		１月の価格情報				２月	１月下旬の東京都・大阪市場の入荷量（　）内は、本年と過去３カ年平均値との比率	２月の主産地	生育及び価格の２月下旬までの見通し
		（参考）過去５カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格 上旬	中旬	下旬	（参考）過去５カ年平均価格			
洋菜類	ブロッコリー	307.40	651 (212%)	545 (177%)	523 (170%)	274.14	・562t (85%)	愛知(37)，香川(24)，埼玉(11)	愛知産及び香川産は、11月以降の低温で生育遅れが発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、12月以降の低温や干ばつ傾向の影響で生育が遅れていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 愛知産、香川産及び埼玉産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめの出荷と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		417.58	617 (148%)	606 (145%)	568 (136%)	367.08	・156t (78%)	徳島(34)，香川(12)，熊本(9)，和歌山(8)，長崎(7)	
根菜類	ごぼう	335.74	404 (120%)	409 (122%)	360 (107%)	322.96	・252t (84%)	青森(57)，茨城(16)	青森産は、太物率が高いものの、降雪による収穫遅れで、貯蔵ものの残量が少ないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷は平年並みと見込まれるものの、青森産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		188.58	206 (109%)	228 (121%)	246 (130%)	196.38	・150t (62%)	茨城(51)，青森(12)，中国(11)	
	かぶ	152.30	281 (185%)	215 (141%)	196 (129%)	141.29	・292t (68%)	千葉(91)	千葉産は、昨秋の台風とその後の長雨により肥大不足となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		137.79	294 (213%)	286 (208%)	241 (175%)	140.01	・55t (60%)	徳島(50)，福岡(30)	

「図の見方」



平均価格（点線）は、レポート期間中に変動する場合があります。

注：１　平均価格は、過去５カ年（平成25～29年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
２　旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/ｋｇである。
３　旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
４　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで平成28年実績である。

2　野菜の輸入動向　　－　野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について　－

〇輸入について

貿易統計によると、平成29年12月の生鮮野菜の輸入量は、8万3千トン（前年同月比106%）であった。また、輸入量の多い加工野菜は、16万2千トン（同101%）であり、野菜全体では、24万5千トン（同103%）と前年よりやや増加した。

このうち、中国産の輸入数量は合計で13万8千トン（同106%）と、輸入量の57%を占めた。

12月の生鮮野菜の輸入量は、7ヶ月ぶりに対前年を増加した。これは、昨秋の長雨や台風、その後の低温、干ばつにより多くの品目が高値水準で推移したことから、業務用で海外産を仕入れる動きが強まったと考えられる。

〇輸出について

12月の輸出量は、野菜全体では3073トンと、前年同月を大幅に下回った（前年同月比45%）。生鮮野菜が1675トン（同30%）、加工野菜が1399トン（同119%）と、生鮮野菜が前年同月を大幅に下回った。

なお、輸出量が前年を大幅に上回った いちごは、季節に応じた商品展開などの販促用需要の海外からの引き合いが高まったことによるもので、香港等の輸入先が異常高温による作柄不良であったことによるものとみられる。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量（平成29年12月）

（単位：トン、%）

区分	平成27年	前年比	平成28年	前年比	平成29年12月	前年同月比	平成29年1～12月	前年同期比
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	83,012	106	862,085	100
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	162,071	101	1,890,044	107
野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	245,083	103	2,752,129	105
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	138,476	106	1,422,558	104
中国産シェア	53		52		57		52	

主な生鮮野菜の輸入先（平成29年12月）

（単位:トン、%）

	輸入合計	前年比	1位 国名	数量	2位 国名	数量	3位 国名	数量
たまねぎ	24,352	109	中国	23,737	米国	591	タイ	24
かぼちゃ	14,388	88	メキシコ	14,138	ﾆｭｰｶﾚﾄﾞﾆｱ(仏)	175	トンガ	72
にんじん	7,831	100	中国	7,762	豪州	54	米国	14
ねぎ	6,068	112	中国	6,068				
キャベツ	5,075	229	中国	5,006	韓国	37	豪州	32
ごぼう	4,049	83	中国	4,013	台湾	36		
ジャンボピーマン	3,770	104	韓国	3,194	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	572	オマーン	2
結球レタス	3,746	150	台湾	2,142	米国	1,168	韓国	312

同　（平成28年12月）

（単位:トン）

	輸入合計	1位 国名	数量	2位 国名	数量	3位 国名	数量
たまねぎ	22,240	中国	20,860	米国	1,362	インド	10
にんじん及びかぶ	16,270	メキシコ	16,173	トンガ	75	豪州	23
にんじん	7,815	中国	7,421	豪州	375	米国	19
ねぎ	5,420	中国	5,420				
キャベツ	2,217	中国	1,986	米国	121	ベトナム	47
ごぼう	4,858	中国	4,834	台湾	24		
ジャンボピーマン	3,614	韓国	2,826	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	785	オランダ	2
結球レタス	2,491	台湾	2,031	米国	460		

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量（平成29年12月）

（単位：トン、%）

区分	平成27年	前年比	平成28年	前年比	平成29年12月	前年同月比	平成29年1～12月	前年同期比
生鮮野菜	22,992	240	31,867	139	1,675	30	21,546	68
加工野菜	9,510	121	11,101	117	1,399	119	12,257	111
野菜合計	32,502	186	42,968	132	3,073	45	33,802	79

主な生鮮野菜の輸出先（平成29年12月）

（単位:トン、%）

	輸出合計	前年比	1位 国名	数量	2位 国名	数量	3位 国名	数量
ながいも	887	178	台湾	491	米国	334	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	55
たまねぎ及びシャロット	302	7	台湾	232	ロシア	48	香港	19
いちご	144	159	香港	114	台湾	21	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	6

同　（平成28年12月）

（単位:トン）

	輸出合計	1位 国名	数量	2位 国名	数量	3位 国名	数量
ながいも	498	台湾	288	米国	161	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	42
たまねぎ及びシャロット	4,425	韓国	4,206	台湾	214	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	5
いちご	90	香港	74	台湾	10	タイ	3

同　（平成27年12月）

（単位:トン）

	輸出合計	1位 国名	数量	2位 国名	数量	3位 国名	数量
ながいも	969	台湾	576	米国	335	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	52
たまねぎ及びシャロット	6,216	韓国	5,985	台湾	145	オランダ	40
いちご	71	香港	63	台湾	4	タイ	2

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部　需給業務課 安藤、松岡、植村　TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484　ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載禁ず　・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。